

## 令和4年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和5年3月18日(土) 午前10時～12時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

### 3 出席者

(委員) 押樋委員長 西村副委員長 沼委員 高橋委員 松本委員 館委員  
澁谷委員 堀内委員

(事務局) 教育長 教育次長 生涯学習部長 生涯学習部次長  
中央図書館長 中央図書館副館長 総務係長 総務係副主査

4 傍聴人 0人

### 5 議題

報告事項

- (1) 令和4年度図書館自己点検評価について
- (2) 令和5年度図書館事業計画について
- (3) 職員の研修計画について

### 6 議事の概要

報告事項

- (1) 令和4年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- (2) 令和5年度図書館事業計画について、事務局より報告を行った。
- (3) 職員の研修計画について、事務局より報告を行った。

### 7 会議経過

報告事項

- (1) 令和4年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。  
その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 誰がいつまでに実施するのか、目標や行動計画をどう立てていくか、新年度に具体的に計画を立てて取り組んでほしい。

- (2) 令和5年度図書館事業計画について、事務局より報告を行った。  
その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) ものづくり整備事業は全国から注目を集めるだろう。事業はいつから開始されるの

か。

(回答) 設計や工事、機器の調達があるため、令和6年3月頃を見込んでいる。

(意見) PR活動をしっかりとしてほしい。

(質問) どのような流れで図書館に整備することになったのか。

(回答) 市長の公約でもあり、企画政策課が実施計画事業として1年以上検討してきた。他の公共施設とも比較し、幅広い市民が集まる図書館に整備することとなった。

(質問) 対象はどこに置くのか。海外では大きい図書館にファブスペースがあり、いろいろな試みがされている。どこかとの連携は考えているのか。

(回答) 最初は学校と連携し、子どもたちを対象にと考えている。公民館や博物館との連携も考えられる。その後は誰でも使えるスペースとしていきたい。

(質問) かなり特殊な知識が必要となる。運営は誰が行うのか。

(質問) 音の問題や化学物質の発生もある。日本の図書館では普及していないが、マイナス面を考慮した運営が必要となる。

(回答) 配置される人員が問題であることは認識している。公共図書館がいきなりやるのは難しい。はじめは専門の運営業者に委託し、最終的には図書館職員で運営していくようにしていく。市民との協働という形も作っていきたい。

(意見) 国内の図書館の先行事例の多くは閑古鳥が鳴いている状況である。安全性の問題から制限も多く、使いにくいとの意見がある。人の問題も大きい。成功している北欧のように図書館が活動する場として定着していない。図書館でもできるのだということアピールしていかないと利用が伸びないだろう。

(意見) 図書館員は文系が多いと思われる。活用できるかが心配である。

(意見) 市民へのPRをきめ細かくわかりやすく準備することが大事である。

(意見) なぜ図書館で行うのか。図書館機能にどう結びつけるかが重要である。

(質問) 浦安震災アーカイブを国立国会図書館に移譲するとは具体的にどういうことか。

(回答) 図書館のホームページからは見られなくなり、国立国会図書館のサイトへ移る。著作権は市に残るので、利用が見込まれるものは図書館のホームページで公開することも可能である。

(質問) 図書館のホームページにリンクが張られるのか。

(回答) そうなる見込みである。

(質問) 浦安市ではデジタルアーカイブは行わないのか。

(回答) 浦安市ではまず震災アーカイブ、次に地域資料のデジタル化、その次に電子書籍と段階を踏む計画であった。地域資料のデジタル化にはいずれ取り組んでいきたい。

(意見) 浦安市は歴史は浅いが、地域資料のデジタル化には取り組んでほしい。

(3) 職員の研修計画について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 図書館運営を誰が担うのか、今後の図書館のあり方によってはどんなスキルが必要

なのかを見極める必要がある。

(意見) ものづくり事業がなぜ図書館で必要かをまず職員に浸透させることが必要である。

(意見) 新しい事業を実施するには、新しいマネジメント、新しい研修が必要となる。

#### (4) その他

以下のような意見があった。

(意見) アメリカではものづくりのコーナーが学校図書館にあり、高校生がボランティアで運営に協力していた。運営には人が大事であり、図書館がやるには難しいのではないか。人を集めるのが大切であり、ものづくり事業が活性化することを期待したい。

(意見) 子ども図書館の話題が少なくなっていったが、最近の状況が気になっている。

(意見) 子どもたちにとってデジタルは当たり前になっている。震災の記憶のない子どもも増えたが、震災アーカイブはよく利用していた。アーカイブは移しても震災教育は引き継いでいってほしい。

(意見) 子どもの創造力は大人を超えている。ものづくりのコーナーについて、子どもをターゲットにするのは良いと思う。さらなる来館につながることを期待する。

(意見) ものづくり事業は新たなチャンスである。利用者同士の化学反応、図書館にとっての化学反応を期待する。新しいデジタル技術を、専門職集団がどのようにして市民に使えるようにしていくのか期待している。

以上